

# SERI NEWS RELEASE

平成 23 年 7 月 25 日

財団法人静岡経済研究所  
理事長 鈴木一雄  
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13  
アゴラ静岡 5 階  
TEL054-250-8750  
FAX054-250-8770

## 平成 23 年 7～9 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「7～9 月期の見通し」は、『やや上昇』が 4 業種、『横ばい』が 16 業種～

□平成 23 年 6 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（4～6 月期）の業況は、『順調』が 1 業種、『普通』が 3 業種、『低調』が 7 業種、『不調』が 9 業種と、震災直後の前回 3 月調査から、さらに悪化した。

□平成 23 年 7～9 月期の見通しについては、20 業種中『やや上昇』が 4 業種、『横ばい』が 16 業種となり、『やや下降』、『下降』を見込む業種はないことから、県内産業景気は底入れしつつあるとみられる。しかし、円高など輸出環境の悪化に加え、個人消費の冷え込みがなお続くなど、回復への道のりは厳しい。

担当：研究部 望月

# 県内産業景気は底を打ち、回復急ぐも 大震災の傷はなお深く

静岡県内産業の四半期ごとの業況推移

年次		平成20年		平成21年				平成22年				平成23年	
四半期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)
対象月(○は調査月)		7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥
業 界 景 気 の 現 況	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
	順調 ○	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
	普通 🌓	7	3	0	1	0	0	1	2	2	1	2	3
	低調 ☁	11	17	12	13	14	14	11	10	11	12	13	7
	不調 🌧	0	0	8	6	6	6	8	8	4	5	5	9
	全業種の平均階級値	2.55	2.15	1.60	1.75	1.70	1.70	1.65	1.70	2.25	2.10	1.85	1.80
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業 界 景 気 の 見 通 し	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	0	1	2	1	0	0	3	1	2	0	4
	横ばい →	18	5	13	17	17	18	19	17	13	15	11	16
	やや下降 ↘	2	15	6	1	2	2	1	0	5	2	9	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0

注1) 「業界景気の現況」及び「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4～6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7～9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成23年6月初旬

調査対象企業…県内主要20業種(142社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成23年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し										
			生産量 (前4～6月期 対比伸び率)	売上高 (前4～6月期 対比伸び率)	生産量 (前年同期比 伸び率)	売上高 (前年同期比 伸び率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前4～6月期対比)	製品価格の動向 (前4～6月期対比)	資金繰り	受注残 (ヵ月)
製茶	///	→	—	—	—	↗	○	供給超過	適正	→	↘	普通	—
食品・飲料	●	→	↗	↗	↗	↗	○	均衡	適正	↗	→	普通	0.3～1.0
家庭紙	●●	→	→	→	↘	↘	○	供給超過	適正	↗	→	普通	0.1～1.0
産業用紙	●●	→	→	→	→	→	◇	供給超過	適正	↗	→	普通	0.2～1.0
工作機械	●	↗	→	→	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	普通	1.0～5.0
民生用電器部品	●	→	↗	↗	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～2.1
自動車部品	///	↗	↗	↗	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.2
二輪車部品	///	→	↗	↗	→	→	◇	均衡	適正	↗	→	普通	1.0～3.0
建設	///	→	—	↗	—	↘	○	供給超過	適正	→	→	普通	2.0～6.0
住宅	///	→	—	→	—	↘	○	供給超過	適正	→	→	普通	1.0～3.0
大型小売店	●●	→	—	→	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	普通	—
食品スーパー	●●	→	—	→	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	普通	—
自動車販売	///	↗	—	↗	—	↘	—	均衡	適正	→	→	普通	—
家電量販店	○	→	—	→	—	→	—	均衡	適正	→	→	普通	—
運輸・倉庫	●●	→	—	→	—	→	○	供給超過	—	→	→	普通	—
情報サービス	●●	→	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	普通	—
外食	///	↗	—	↗	—	→	—	供給超過	—	→	→	普通	—
観光・レジャー	///	→	—	↗	—	↘	—	供給超過	—	→	→	逼迫	—
リース	///	→	—	→	—	↘	—	—	—	—	—	普通	—
人材派遣	●●	→	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	普通	—
〈特別調査 平成23年7～12月期 半期見通し〉													
家具	●●	↘	↘	↘	↘	↘	◇	供給超過	過多	→	↘	普通	0.5～1.0
楽器	●●	→	→	→	→	→	◇	均衡	適正	→	→	普通	—

表の見方と注意

業界景気の現況	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準	資金繰り
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少	非常に余裕
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少	余裕
普通 ●	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正	普通
低調 ●●	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多	逼迫
不調 ///	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多	非常に逼迫

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。  
半期調査対象企業…2業種の企業4社。

## 県内主要産業の動向

### (1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成23年4～6月期）の業況は、『順調』とする業種が1業種、『普通』が3業種、『低調』が7業種、『不調』が9業種と、震災直後の前回3月調査から、さらに悪化した。省エネ家電の売れ行き好調を受けて、前回『低調』だった「家電量販店」が『順調』に2ランク、「民生用電器部品」が『普通』に1ランク上昇したものの、「製茶」、「住宅」、「外食」、「観光・レジャー」の4業種が、震災や原発事故に伴う自粛ムードの強まりなど消費不振から『不調』に落ち込んだ。

### (2) 業界景気の見通しについて

平成23年7～9月期の見通しは、20業種中、『上昇』の業種こそないものの、『やや上昇』が4業種、『横ばい』が16業種となり、『やや下降』、『下降』を見込む業種はないことから、県内産業の景気は夏までに底入れし、回復に向かう機運が感じられる。

業種別にみると、引き続き中国をはじめとした新興国需要の拡大が見込まれる「工作機械」が『普通』から『やや上昇』。サプライチェーン障害の解消から夏以降、フル稼働が予想され、それに伴い流通完成車の増加が見込まれる「自動車部品」、「自動車販売」および、家庭における節電対応のために外食機会の拡大が期待される「外食」の3業種が『不調』から『やや上昇』の見通し。また、エアコン、扇風機といった省エネ・暑さ対策商品やLED電球などの販売が絶好調の「家電量販店」が『順調』のまま、洗濯機、冷蔵庫の生産がやや落ち気味ながらエアコン生産ラインのフル稼働が見込まれる「民生用電器部品」が『普通』のまま『横ばい』。原料価格の上昇が不安材料ながら震災・猛暑特需から飲料缶、ツナ缶の生産増加が見込まれる「食品・飲料」も『普通』のまま『横ばい』の見込み。さらに、原・燃料代、人件費などのコスト上昇が予想されながら、販売価格や客単価の引上げが難しそうな「家庭紙」、「産業用紙」、「大型小売店」、「食品スーパー」、「運輸・倉庫」、「情報サービス」、「人材派遣」の7業種は、『低調』のまま『横ばい』。震災や原発事故の余波で個人消費にブレーキがかかっている「製茶」、「住宅」、「観光・レジャー」と、とくに欧州の需要が落ち込んでいる「二輪車部品」、ユーザーである企業や公共部門の投資意欲が極めて弱い「建設」、「リース」の合計6業種では、『不調』が続き『横ばい』の見通し。

なお、半期調査業種では、「家具」は高価格帯商品の引き合いが少なく、『低調』から『やや下降』、「楽器」も国内市場の縮小が続き、『低調』のまま『横ばい』の見通し。



自動車関連、電気機器製造業などでは、サプライチェーン障害に伴う生産の落込みから予想以上の速さで立ち直り、8月頃には年初計画以上の供給体制に入りそうだが、欧州経済の混迷から円高が続き、新興国のインフレ懸念もあって輸出環境は不透明な状況。また、放射能問題や食材・燃料価格の上昇などから個人消費がさらに冷え込む可能性もあり、産業景気は、この夏までに底を打つ見込みとはいえ、本格回復への道のりはなお厳しい。